

重点目標	短期目標	評価の観点	目標のための具体的方策	達成状況	改善の方向性
確かな学力の育成（知）	授業改善と教科指導の充実	・校内研究ラーズに基づき、授業改善及び指導の工夫がなされている。	・校内研究ラーズに基づき、年間に一人一授業を公開し、評価・改善を行う。 ・授業改善推進プランに基づき、根拠を明らかにして伝える場面で授業の中で意図的に設定する。	・一人一授業を公開し授業後に協議を行うことができた。 ・出前講座や指導主事の学校訪問を生かし、授業や校務でのICTの活用を進めることができた。 ・授業に前向きに取り組めない生徒へのフォローや授業力の向上が必要。	・授業公開と事後協議を継続する。 ・「授業者の強み」に視点を当て、改善の具体策も共有できる研究協議を継続する。 ・放課後学習会やたつじんテラスフオーアツアの持続可能な校内体制づくりをする。
	言語活動の充実と環境の整備	・各教科及び行事等において、言語活動の充実が図られている。 ・言語活動の充実に必要な環境が整備されている。	・各教科及び行事等において、言語活動を取り入れ、効果的であったか検証する。 ・生徒が活用しやすいように、タブレットや図書の整備を行う。	・各教科・領域で言語活動に視点をあてたパフォーマンス課題が充実してきた。 ・総合的な学習の時間を中心に、タブレットや学校図書館を活用した探究学習を実施できた。	・言語活動を継続して行う。 ・授業や校務でのICT活用について、AI活用も含めて研修を継続する。 ・様々な教科で図書館活用の授業が実施できるよう、「学びの技」の活用計画を図書館活用年間計画に取り入れる。 ・生徒が「読書をしてよかった」という実感がもてるように指導を工夫する。本に触れて親しむ方法として電子書籍を取り入れる等、方法を検討する。
	生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援体制の構築	・一人一人の生徒が「できる」「わかる」実感や達成感をもてるようきめ細やかな支援や指導を行っている。	・職員会で情報を共有し、生徒の困り感や実態把握を行い支援方法を検討する。 ・迅速な支援会議を行い、記録して検証し、次に生かす。 ・通級指導教室と連携したり、江津市巡回教育相談を活用したりするなどして、個に応じた支援を行う。	・放課後学習会やたつじんテラスのフオーアツア学習会を実施できた。 ・通級指導教室との連携、教育相談の活用を通して、個に応じた支援を行った。また、学級全体に対する教師のより良い指導法についても市教育委員会の指導主事や巡回教育相談員より指導を受けることができた。	・45分授業の弾力的運用等を通して個別指導の時間を確保し、全校での継続した指導体制づくりに取り組む。 ・たつじんテラスのフオーアツアの際に、学力が高い生徒に対する発展課題も準備し、個のニーズに応じた補充学習ができるようにする。 ・通級指導教室との連携、教育相談の活用を継続する。
	家庭学習の充実と基礎・基本の定着	・授業と関連した自主学習や宿題等の家庭学習課題が計画的に示され、基礎・基本の定着と学習習慣の定着が図られている。	・昨年度行った改善策を受けて、家庭学習ノートの取り組みについて教職員間で共有する。学年部の実態に応じて柔軟にすることについての基準を明確にする。 ・授業と関連した効果的な家庭学習ノートについて職員会で情報共有し、学年部で生徒に周知する。 ・学年の学習の実態について情報共有し、課題と効果的な指導方法について協議する。	・多くの生徒が取り組んでいるが個人差がある。 ・学習支援員の添削により、個別支援が充実した。 ・長期休業中の課題にタブレット学習を取り入れ、自学ノートの量を調節できた。	・学習支援員の添削を継続し、個別支援の充実を図る。 ・自学におけるタブレット活用について検討を続ける。 ・各学級のホワイトボードを見て、各教科担任が宿題の量と提出日を含めた時期を調整する。

重点目標	短期目標	評価の観点	目標のための具体的方策	達成状況	改善の方向性
豊かな心の育成（徳）	互いを認め合い、支え合い、高め合う生徒集団の育成		・行事での縦割り班や生徒会活動を通して、他者と関わり主体的な活動をする場面をつくる。 ・フロンテートや面談、日頃の生徒理解等により、実態把握を行い、いじめの未然予防に努める。 ・必要に応じて情報共有を行い、一部の職員だけでなく組織で動けるように報告・連絡・相談を徹底する。 ・職員会で定期的に情報交換を行い、学習規律の確立など生徒が安心して学校生活を送れる環境をつくる。 ・各授業等を通し、全ての生徒にとって、自らの居場所や他との絆を実感できる教育活動をすすめる。	・生活フロンテートや教育相談などを実施し、生徒の成長や悩みを把握できるように努めた。学級、学年の枠を超えて、教員間で生徒の様子を共有することができた。また、朝読書の取り組み方や授業中の学習規律、学校での過ごし方の見直しを行い、全教職員で指導にあたった。 ・問題となる事案が発生するなど、十分な成果をあげることができたとは言えない。全生徒が落ち着いて過ごせる学習環境の整備、授業や生活の規律を定着させることは今後も継続していく必要があると考える。	・生徒会活動をはじめ、生徒の自主性、主体性をはぐくむよう、さらに発展な活動を目指す。また、全教職員で生徒の様子を把握できるよう、情報交換や指導記録の共有を継続する。 ・生徒が一層安心して学校生活が送れるよう、生徒の様子に目を配り、声かけをしていく。積極的な生徒指導に、全職員で取り組む。
	人権・同和教育の推進		・参加型の職員ミニ研修を複数回実施し職員の人権意識を高める。 ・日常生活にある人権課題について、授業や職員会等で話題にし、人権感覚を磨こうとする雰囲気をつくる。 ・講演会や集会を中心とした人権権月間に取り組む。また、集会は参加型とし、生徒が自分ごととして考えられる場を設定する。 ・年間指導計画をもとに、各学年部を中心に人権に視点をあてた授業を継続的に行う。	・7月と11月に全校での人権学習を参加型で実施できた。各学年部や教科・領域においても人権教育に取り組んだ。 ・学んだことを日常生活につなげ、相手の立場に立って発言することや、教室の言語環境づくりについて、課題が残る。	・年2回の全校人権学習と各教科・領域での人権学習を継続し、3年間で様々な人権課題について学ぶことが出来るようにする。 ・年間指導計画（題材表）について、各学年部で振り返る時間をもつ。 ・日常生活における生徒の人権感覚について、課題に感じることが職員間で共有し、全教職員で継続して指導する。
	インクルーシブ教育の視点に立った教育活動の推進		・インクルーシブ教育の視点に立ち、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援が図られている。 ・特別支援教育コーディネーターを中心として、支援計画に基づきながら組織的に対応が図られている。	・定期テストのルビ振りや時間延長など、個に応じた支援ができた。 ・職員会や職員室内での教員の気づき（会話）などから、生徒の状況や困り感を共有し、外部への支援へつなげることができた。	・小中の連携がきちんとできており、入学時に保護者との連携も行っている。スムーズに学校生活を送ることができているので今後も継続する。個別の指導計画を活用できていない時もあるので、各学年毎に見直しをしていく。 ・職員会議等で生徒の情報共有ができていたので、継続する。生徒の困り感については、より細かな状況把握が必要であり、さらに教員の態度を高める必要がある。また、巡回指導等でアドバイスを受けた教師の関わり方についても職員間で共有していく。
	道徳教育の充実と体験活動の推進		・「考え、議論する道徳」に取り組むことで、人間としての生き方について考えを深めさせている。	・ICT等の活用により、互いの考えを議論する時間を設けることができた。 ・さまざまな教科領域で生き方について考える場面があり、道徳教育について関連づけることができた。	・学年の発達段階に応じた評価の観点を設定する。 ・道徳で学んだことを日常生活に繋げられるように、折に触れるようにする。

令和7年度 桜江中学校学校評価

NO.3

重点目標	短期目標	評価の観点	目標のための 具体的方策	達成状況	改善の方向性
健康やかな体の育成（体）	学校保健、食育の推進と望ましい生活習慣の確立		・メディアコントロールについての取組を生徒会活動を中心に継続的にやっている。	・保体部生徒が学級への周知や掲示を行ったこと、担任が丁寧に確認したことと提出率は高かった。 ・一方で、子どものみで取り組み、保護者が実態を知らない家庭もある。	・メディアコントロールが始まる前や、提出日の前にtetoruでもお知らせする。 ・メディアコントロールの個人結果を、個人懇談等で保護者の方にも見ていただく。 ・メディアコントロールグループは大きい取組である。必要性のある取組として、取組の意義をより伝えることが大切である。
		・食育の授業を栄養教諭と行い、保護者と生徒に望ましい生活習慣について啓発をしている。	・栄養指導前に、栄養教諭が生徒と一緒に給食を食べることで、より生徒の実態に合わせた授業が行えるようにする。 ・各学年の栄養指導の様子だけでなく、栄養指導の内容についても、ほけんだよりで保護者に周知する。	・栄養教諭による給食指導に取り組むなど、各学年の特徴や傾向に合わせた授業を計画・実施することができた。 ・栄養指導の様子や内容について、保健だよりやHPで保護者・地域に周知することができた。	・学校保健委員会やバースデープロジェクトで、外部講師と連携し、講演を計画・実施することができた。また、その様子をHPやたよりで周知することができた。
		・外部講師を積極的に活用した授業を行っている。	・学校保健委員会が生徒・保護者が一緒に外部講師の講演を聞けるように計画することで、親子で健康についての意識を持てるようにする。	・学校保健委員会やバースデープロジェクトで、外部講師と連携し、講演を計画・実施することができた。また、その様子をHPやたよりで周知することができた。	・学校保健委員会等、生徒だけでなく保護者に対しても食育を啓発できる機会をつくる。
		・情報モラル教育の充実を図っている。	・各教科や総合的な学習の時間等において、情報モラルに関する指導を随時行う。 ・タブレットの使い方について、生徒だけでなく保護者にも情報を提供する。。	・授業、全校集会等で情報モラルについて考える時間を設定することができた。 ・SNSや生成AIの利用について、情報モラル講演会を実施した。 ・生成AI活用ガイドラインを作成し、周知した。	・来年度も、社会の変化や生徒の実態に合った情報モラル講演会を実施する。 ・情報モラル教育の講演会等の実施時期については、年間を通じて指導にいかせるよう検討する。 ・タブレットの使い方について、継続的に指導する。
		・防災意識の向上を図っている。	・学期ごとに計画的に避難訓練を実施する。	・年3回避難訓練を実施した（1学期は小中合同引き渡し避難訓練、2学期は火災避難訓練、3学期は地震災害避難訓練）。	・来年度も継続して計画的に実施する。避難場所について検討する。
		安全教育の推進	・1年生を対象に交通安全教室、春と秋の交通安全週間に登校指導を行い、交通安全について意識を持たせる。 ・朝終礼や学活を用いて、普段の生活での安全について考えるきっかけを作る。	具体的な方策について、各学年の協力を得て達成することができた。全校集会や掲示物で、交通安全について喚起した。	交通安全に対する必要な情報の提供、見回り、安全への啓発を行い、意識を持たせる。
体力づくりの習慣化と体力向上	・体育の授業を通して、計画的に体力づくりに取り組み、体力の向上を図っている。	・授業の始めに3分間走を継続して行い、持久力を高める。 ・各単元で運動量を確保する。 ・全校で運動に親しむ機会を各学期に1回設定する。	授業の始めに3分間走などを行い、運動量を確保することができた。ベアワークや話し合い・教えあいを人々ながら、運動量を確保することができた。全校での取り組みは、時間の調整が難しく、年1回しか行うことができなかった。	体力テストの結果を基に、本校の数値が低い項目に着目し、体力向上に結びつくような運動を授業でも取り扱っていく。 全校での取り組みは、企画の中心となっている保体部や教務部と、無理のない範囲で実施できるよう相談する。	
勤労意欲の向上	・勤労への意欲がもてるような体験をさせる。	・総合的な学習の時間を中心に、地域のことを学習したり、職業に対する地域の人の思いを聞いたりすること、働くことの意義や役割について考えさせる。	・見学や体験活動を通して、地域のことについて学習をしたり、地域の方の思いを聞いたりすることができた。また、発達段階に応じた働くことの意義や役割について考える機会をもつことができた。	・引き続き年間指導計画に沿って、学年のテーマに合わせた体験活動等を計画したり、講話の内容について事前に打合せをしたりする。今後も地域で働く人の話を聞く機会を継続してもつ。	

令和7年度 桜江中学校学校評価

NO.4

重点目標	短期目標	評価の観点	目標のための具体的方策	達成状況	改善の方向性
ふるさとを愛する心の醸成（社）	ふるさとへの愛着と誇りの醸成	・ふるさとへの誇りを育てている。 ・自己肯定感や、他者の立場や考えを尊重し思いを受容する力を育てている。	・ふるさとの良さや課題、未来を考える学習活動を設定し、ふるさとへの理解や愛着が深められるようにする。 ・ふるさとの人に出会う機会を意図的に設定し、大人の思いに触れさせる。 ・すべての学習や活動の中で、他者の立場を考え尊重する思いを育てるとともに、受容されることで自己肯定感を高める。	・地域の「ひと・もの・こと」を活用した活動を通して、地域の課題について考える機会の設定ができた。 ・インタビューや座談会、トークフォーグラウンドなど様々な形式で、地域の方と直接交流する場をもつことができた。 ・意見交換をするなかで、受容された経験をすることで自己肯定感を高める一助になった。	・今後も地域の「ひと・もの・こと」を活用しつつ、年間指導計画に沿って授業を展開する。 ・対面して人から学ぶ姿勢を大切にし、意図的に時間をつくる。 ・学年や学校全体に、他者を受容する雰囲気作りをより一層行う。
	ふるさと・キャリア教育の推進	・自己理解を深めさせるとともに、将来像を考えさせている。 ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせている。	・総合的な学習の時間や学活で自分の未来を考えたり、地域講師の地域への思いを考察したりする中で、自分の将来の姿とふるさとの未来を関連させて考えられる授業を設定する。 ・キャリアパスポートの活用を通して、今の自分を振り返り、自分のキャリアを考察する機会を設定する。	・体験活動や地域の方の思いを聞く活動を通して、地域の良さを知るとともに課題を設定し、課題解決の方法を考えたり、提案を形にしたりすることができた。 ・キャリアパスポートに目標を記入することで、自分の役割を考えて行事に積極的に参加することができた。	・市教委社会教育課やてごねっと等の社会資源を活用し、体験活動や地域の方の思いを聞く機会を設定する。 ・地域体験のあと、個人課題を設定して探究していく学習（探究の2周目）に全学年で取り組む。 ・キャリアパスポートを活用し、過去を振り返り、今と未来の成長につなげる。
	積極的な情報発信による異校種間や家庭・地域との連携	・家庭・地域に向けて、教育活動、生徒の様子等の情報発信に努めている。	・種々なより、HP、メール配信等を通して、学校の方針や教育活動、生徒の様子等を保護者、地域に発信する。 ・月1回授業公開日や保護者が参加できる行事を設定する。	・定期的に学校だより、学年(学級)だよりやHPで情報発信できた。HPでは毎週「今週のトピックス」を、学校だよりは月2回発行し、月末には桜江町全戸に配付した。 ・毎月1回授業公開日とし保護者が生徒の様子を参観する機会を定期的に設けた。総合的な学習の時間の成果発表会を授業公開日に合わせ設定したことで、多くの保護者や地域の方々にも参観に来ていただけた。	・来年度も読み手を意識し、生徒の活躍をよりわかりやすくなるよう内容を工夫・検討していく。 ・より多くの保護者が関心をもって参加していただけるよう、授業公開の内容や事前と直前の案内を丁寧に行う。
	「社会に開かれた教育課程」の実現	・家庭や地域とビジョンを共有し、育成したい生徒像を共有している。 ・地域のことを考え、地域のために行動・実践する場を充実させている。	・HPや学校だよりを通して、生徒の活動を知らせるとともに、活動を通して育てたい生徒像を発信していく。 ・コミュニティ・スクールの運営が円滑に進むように支援し、今後に生かされるようにする。 ・ふるさと教育を中心として、社会の現状を知り、社会に発信する学習活動を意図的に設定する。	・定期的にHPを更新したり学校だよりを配付したりすることができた。そして、活動を通して育てたい生徒像を保護者や地域の方にも発信し共有することができ、同じ目線で学校づくりに参加していただけた。	・さらに読み手を意識し、よりわかりやすくなるよう内容を工夫・検討していきたい。 ・保護者の方に地域の一員として参加する場を設定する。(トークフォーグラウンドなど) ・コミュニティスクールを十分に活用できたとはいえないので、次年度はコミュニティスクールとの連携をより深め、一層地域の方々が学校の教育活動に参加できる機会を増やす。

令和7年度 桜江中学校学校評価

NO.5

重点目標	短期目標	評価の観点	目標のための具体的方策	達成状況	改善の方向性
信頼される学校づくり	チーム力ある組織づくり	・役割分担を明確にし組織的にチームワークよく取り組んでいる。	・校務分掌を活用し、全員が組織的に取り組めるよう役割を明確にする。 ・企画会・職員会議を計画的に行い、報告・連絡・相談を徹底する組織づくりを推進する。	・チームで動く体制を常に意識し、計画的に企画会・職員会議を行いつながら報告・連絡・相談を徹底する組織作りを推進した。	・情報の共有の仕方について、持続可能な方法を今後検討していく。
	安全点検・整備による教育環境の保全	・定期的に安全点検をし、環境整備をしている。	・学校施設の安全点検を月1回行い、安全を優先し、市教育委員会と連携して速やかに対応する。 ・PTAと連携し環境整備を行う。	・月ごとに全教職員で取り組む安全点検を通して、早めの修繕や市教委への連絡を行い教育環境の保全に努めた。 ・PTA環境奉仕作業を年に2回実施し、その後保護者とともに校舎や通学路についての安全点検を実施した。	・通学路の危険箇所については年度始めに保護者に呼びかけを行う。
	教職員の資質・能力の向上	・教育的ビジョンをもち、常に指導力の向上に努めている。	・全教職員による授業公開、校内教職員による各種研修を計画的に実施し、教育課題に即した校内研修の充実を図る。	・研究主題に焦点を絞ったことと、研究部が中心となって取り組んだことで、職員が主体的に職員研修にのぞみ、資質向上に努めることができた。	・今後も新たな教育課題に向けて学び続ける教職員であるよう研修の場を計画的に設ける。
	学校評価を活用した教育活動の実施・改善	・学校の取組についての評価や意見をもらい、組織的に受け止めている。 ・学校評価から取組の成果と課題を整理し、課題解決を図るための教育活動を実施している。	・評価計画に基づき、生徒、保護者、教職員にアンケートを実施する。その意見や結果について教職員間で協議し、評価を行う。 ・評価から出た課題や改善点を明確にし、よりよい教育を実践する。	・次年度に向けた方向性を職員で協議する場をもった。 ・概ね肯定率は8割以上を満たす項目が多かったが、肯定していない少数意見や個別の意見に注目し、次年度への取組につなげる。	・中間評価を行い、課題については年度途中の改善策を協議し、実践にいかす。 ・課題解決を図るための学校評価となるよう、学校評価の評価項目の検討を行う。